

フィラデルフィアにある教会への手紙です。六番目になります。

### 1. フィラデルフィアの教会 (7-8節)

- ①フィラデルフィア (7) **「また、フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。」** フィラデルフィアという町は地図にあるように、サルデス南東40キロほどに位置していました。兄弟愛(ギリシャ語)という意味ですが、その名前によって知られた王にちなんでいます。町は小さく、ぶどうの産地で、ぶどうの神が礼拝されていました。そこにキリスト教会が設立されたわけです。紀元17年の大地震は、この地にも大きな影響を与えました。アメリカ合衆国の東岸にあるフィラデルフィアは、この小アジアの町に由来があります。
- ②ダビデの鍵 (7) **「聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じると誰も開く者がなく、その方がこういわれる。」** ダビデの鍵とはエルサレムの門の鍵のことと考えられ、それはさらに天国の門の鍵を持っている方と理解できます。7節はイザヤ書22:2に基づく御言葉です。その方は聖なる存在、真実な存在とあります。また、その方がその戸の開閉についてなしたことに、人間は変更できないのです。言うまでもなく、その方はキリストご自身のことです。
- ③力があって (8) **「わたしはあなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」** フィラデルフィアの教会に対して、その行いを評価して天国の門を開いておいたと言って下さっています。その理由は、この教会は小さな町の小さな教会であっても、霊的力を持っているということが挙げられます。具体的には、主の言葉を守り、主の名を重視したからだとあります。

### 2. フィラデルフィア教会の忍耐 (9-11節)

- ①キリストの愛 (9) **「見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。」** 真の神の民はクリスチャンであることを確約してくださっています。神の民と誇っていても、キリストを認めない者たちは、サタンの会衆だとすら、主は言われるのです。そして、彼らを弱小のフィラデルフィア教会員の前でひれ伏させ、主がその教会を愛していることを知らせると約束してくださっているのです。光栄ですね。



②主の守り (10)「**あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。**」フィラデルフィアの教会員は信仰生活を送っていくにあたっては、苦労も少なくなかったのです。忍耐を要することも多かったのです。しかし、彼らは御言葉を守って忍耐しました。それが用いられました。それゆえに、試みがやってきたとしても、「あなたを守ろう」という、励まし

の言葉をいただくことができたのです。

③冠を奪われないよう (11)「**わたしは、すぐに来る。あなたの冠を誰にも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていないさい。**」が「わたしは、すぐに来る」というメッセージは黙示録の重要な言葉で、22章7節、12節、20節に出きますし、信者は「来てください」と応答しています。フィラデルフィアの教会には、小なりといえども冠が授けられています。それは神の賜わる見えない冠です。10年程前に教会学校主催でドイツ村に行きました。昼食の時に、子供の手にあったハンバーグか何かを、トンビが奪い去っていきました。与えられている冠を取られないように、しっかりと携えている必要があるのです。

### 3. 新しい名 (12~13節)

①聖所の柱 (12)「**勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。**」私たちは世にあって、悩みがあります。しかし、主は既に世に勝たれたのです(ヨハネ16:33)。主を見上げる者たちには勝利の冠が授けられるのです。ここには、勝利を得る者が「神の聖所の柱」とされるという約束があります。旧約時代の幕屋や神殿の中心は聖所でした。新約の時代には、主の教会の柱と言ってもよいでしょう。フィラデルフィア教会は小なりといえども、そのような言葉をいただいたのです。そして、その教会に主の臨在と助けがあるならば、そこから出て行く必要はないのです。主の完全な守りがあるのですから。

②神の御名 (12)「**わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下ってくる新しいエルサレムの名と、新しい名とを書きしるす。**」フィラデルフィアの教会には、神の御名、神の都、新しいエルサレムの名、新しい名が書き記されるとまで約束されます。それらはすべて地上からではなく、天上からもたらされるものだといわれます。栄光の教会をそこに立ててくださるとのおことばです。

③耳のある者は (6)「**耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。**」聞く耳のない者は聞かずとも、信仰よる霊的な耳のある者は主が言われるこのメッセージを聞きなさいと言われます。この

教会がそれを聞く時の祝福も大きいのです。

### 《結論》

フィラデルフィアという名前が、アメリカ合衆国の一都市に名付けられた理由を、今朝の聖書記事を読んで理解した気がします。この小アジアの町は決して強力だったわけではないのです。いやむしろ弱小で、その教会も、異教に囲まれて、堅く信仰に立つことの難しさを多々抱えていたのです。しかし、ダビデの鍵を持っておられる方、キリストが憐みをくださり、天国の門を開いてくださったのです。フィラデルフィアの教会にあったのは、少しばかりの信仰で、彼らは主の言葉を守り、主の御名を大切にしました。つまり、彼らは難しい環境の中にあっても、主にある忍耐をもって、御言葉を守ったのです。それゆえに、与えられた約束は「地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう」という励ましでした。私どもの人生に襲ってくる試練は時には突然とやってきます。個別的に生ずる場合もあれば、国や社会が共通に遭遇する試練もあります。教会にも試練が突然にやってくる場合があります。教会の兄弟や家族に起きる様々な問題には、キリストの体として痛みを覚えます。2020年現在、世界は病原菌感染という試練に遭遇しています。人心は落ち着かず、社会生活、経済生活などにも不安の中にあります。フィラデルフィア教会への「あなたを守ろう」との約束は、この時代の現実に生きる私たちにも当てはまることです。

概して、試練、苦難に遭遇する時には、なかなか主を見上げられないものです。あの時こうしていれば、あの時にあの人がこう言ったからだ、こうしたからだ・・・と人間的要因を考えて思い煩うのです。時にはそこに関わった人を心の中で責めたり、ののしったり、憎んだり、自己嫌悪したりするのです。「あなたがたは、世にあっては患難があります」と言われる主は「しかし勇敢でありなさい」(ヨハネ16:33)と励まされて、勝利の宣言をしてくださっています。そこで、私たちのできることは、この教会に促されているように、信仰の冠を奪われないように、しっかりと保っていくことです。この世の苦難や試練によって右顧左眄し、間違った目的地を目指してしまうことのないようにしたいのです。そこにはなんと希望もないのですから。

それからこの教会に勝利が約束されているのは、その名にあるように、兄弟姉妹間に兄弟愛が豊かであったからではないでしょうか。彼らの信仰と愛の交わりに、主の一方的なありがたい恵みが注がれて、「あなたを愛している」(9節)というお言葉とともに、喜ばしい名前を刻んでいただいたのです。アメリカの一都市も、こうしたことにあやかって、フィラデルフィアの名前をつけたのでしょ

試練の中にある世界は主に立ち返るよう祈ります。また、教会の兄弟姉妹は主から目を離すことなく、試練の時だからこそ味わえる主の恵みがあることを覚え、主の前に出て行きたいと思うのです。